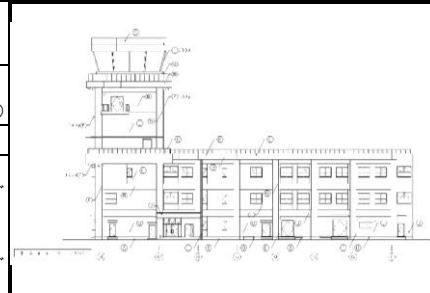


| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|----------------------|--------|------------------------------|
| 建物名称 | 厚木(28)管制塔新設等建築設計 | 階数 | 地上5F |
| 建設地 | 綾瀬市無番地 海上自衛隊厚木航空基地内 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 市街化調整区域、法22条区域 | 平均居住人員 | 86 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 事務所 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2021年3月 予定 | 評価の実施日 | 2018年2月14日 |
| 敷地面積 | 2,600 m ² | 作成者 | 株式会社 泉創建エンジニアリング 一級建築士事務所 |
| 建築面積 | 922 m ² | 確認日 | 2018年2月14日 |
| 延床面積 | 2,752 m ² | 確認者 | 株式会社 泉創建エンジニアリング 一級建築士事務所 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

| | |
|------------------|------|
| ① 参照値 | 100% |
| ② 建築物の取組み | 75% |
| ③ 上記+②以外のオンサイト手法 | 75% |
| ④ 上記+オフサイト手法 | 75% |

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(1-スターチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

| 3 設計上の配慮事項 | | その他 |
|--|--|--|
| 総合 厚木基地内の建築物として、緑地を設けることにより良好な景観を形成している。 日中多くの時間を過ごす事務室を南面に多く配置し、自然光を取り入れ執務空間として快適な室内環境を確保している。 | | |
| Q1 室内環境 遮音性能等級T-2以上の建具を採用し、外部騒音の侵入を抑制し、執務に必要な照度、照度分布の均一性を確保し、グレアを抑制することで、執務空間としての快適性に配慮している。 | Q2 サービス性能 1人当たりの執務スペースを広くとり、天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。 | Q3 室外環境(敷地内) 空地率を大きくし、設備機器の排熱を建築物の高い位置からの放出に努めることで、敷地内温熱環境の向上に努めている。 緑地を設けることにより良好な景観を形成している。 |
| LR1 エネルギー 高効率空調機、LED照明、ヒートポンプ給湯器を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。 | LR2 資源・マテリアル 自動水栓や、省水型機器を用いるなど水資源を保護し、ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。 また、OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。 | LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を75%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。 |

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される